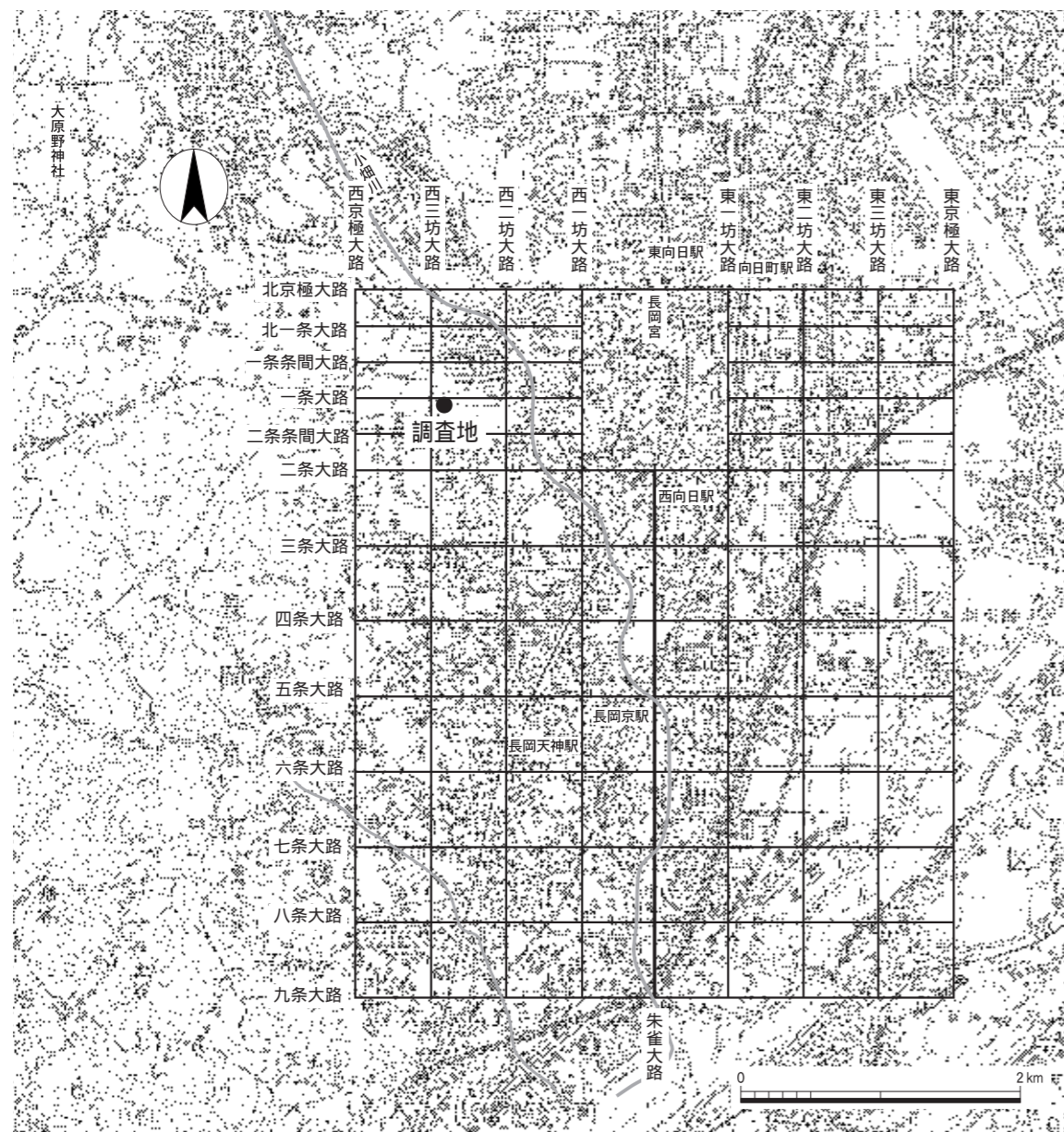


長岡京右京二条三坊九町・十六町 発掘調査現地説明会資料

2006年 2月 11日（土）



場 所 京都市西京区大原野上里南ノ町、長岡京市井ノ内北裏
 期 間 2005年 6月 17日～継続中
 調査面積 A区：2,390m²（終了区域） B区：2,500m²（現在調査中）
 調査主体 （財）京都市埋蔵文化財研究所

1 はじめに

長岡京は、784年に平城京から遷都され、その後平安京に移るまで、10年間都がおかれたところです。京の中は、東西・南北に大路・小路と呼ばれた道路によって、碁盤の目のように区画されていました。今回の調査地はその北西部にあたり、長岡京右京二条三坊九町・十六町の北側、および一条大路にあたっています。

調査は、2002年度から継続して行っている道路新設工事（伏見向日町線）に伴うものです。今年度は文化センター通（通称）から、東側の道路予定地内を西からA区とB区に分けて調査しています。前回説明会を実施したA区では、建物や井戸・柵列、一条大路南側溝などが見つかり、今回報告するB区でも一条大路南側溝の続きや、建物などの発見が予想されました。

2 調査地周辺の様子

昨年度実施した文化センター通の西側の調査では、西三坊大路や、一条大路の南側溝とその南側の宅地内の建物・井戸・門などを発見しています。調査地の南側は丘陵となり、その裾まで西三坊大路は見つかりましたが、丘陵の上では見つかりませんでした。また、調査地の南東にある長岡第十小学校内の調査では、長岡京期頃の川や、大型の建物などが多数発見されています。また、その東側の調査では、西二坊大路の側溝が見つかりました。

平安時代	（長岡京期）							奈良時代	
795	794	793	792	791	787	786		784	781
大極殿完成。東寺、西寺を造り始める。	この頃朝堂院などの殿舎を建てる。	平安京に都をつつす。	長岡京廃都を宣言する。 8月 大雨で桂川・小畑川が氾濫する。	6月 雷雨で式部省の門倒れる。 9月 平城宮の諸門を長岡宮に遷す。	4月 山背国内の諸寺の塔を修復する。	「水陸の便をもってこの邑に遷す」の命令を出す。	大政官院が完成し、官人がはじめて朝座につく。 この頃朝堂院などの殿舎を建てる。	11月 長岡京に都を移す。	5月 藤原種継ら山背国を視察する。 桓武天皇即位する。

3 発見した遺構

今回の調査地は、右京二条三坊十六町の北東隅と、九町の北西隅にあたります。町ごとに遺構の概要を述べます。

十六町

十六町内で、一条大路南側溝と考えられる溝 1 (東西溝)を見つけました。

西三坊坊間西小路推定地

小路の推定地では、北西から南東に流れる川を発見しました。川の中からは長岡京期の土器類 (土師器：杯・皿・椀・高杯、須恵器：杯・蓋・皿)などが大量に出土しました。出土した土器類は、あまりすり減っていないので、上流から流れてきたのではなく、近くで使用された生活用品が捨てられたと考えられます。

九町

九町内でも、一条大路南側溝と考えられる溝 1 を発見しました。規模は、幅約 2 m・深さ約 0.5m です。

溝 1 の南側で、この溝と平行する東西方向の溝 2 を発見しました。規模は、幅 0.8 m です。溝 1 と溝 2 との間は約 2 m の幅があり、ここに南北 2 個で 1 対の柱跡を 9 ヶ所、東西約 6 ~ 8 m の間隔で 50m にわたり見つけました (築地状施設)。

九町宅地内の北西隅部には、掘立柱建物 1 があります。規模は南北 2 間 (4.6m) × 東西 5 間 (12.2m) の建物で、中央に間仕切り (まじきり) を持っています。また、北東には塀が逆 L 字形に造られています。

掘立柱建物 2 は、掘立柱建物 1 の約 20m 東にあり、規模は南北 3 間 (5.8m) × 東西 2 間 (4.2m) の建物です。

掘立柱建物 3 は、掘立柱建物 2 の南東にあり、規模は南北 2 間 (3.8m) × 東西 4 間 (9.8m) の建物で、南側に廂 (ひさし) がつきます。建物内部の北側には、径 1 m・深さ 0.7m の穴が 12 基規則的に並んでいます。これまでの平城京や長岡京の調査例から、甕を据え付けた跡と考えられますが、何を入れていたかは不明です。

掘立柱建物 4 は、南北 1 間 (約 2.9m) × 東西 6 間 (約 14.2m) の規模です。

掘立柱建物 3 と 4 は重なっていますが、建てられた時期に差があると考えられます。

土壇 1 は掘立柱建物 3 の北側にあり、規模は 10m × 4 m です。炭、土師器、須恵器などの破片が多く入っていることから、ゴミ捨て穴と考えています。

4 まとめ

今回の調査では、西三坊坊間西小路に推定されるところには、川が流れており一条大路をも縦断していました。

一条大路の南側溝 (溝 1) と内溝 (溝 2) を見つけました。この南側溝と内溝の間には、柱列があり、この柱列は、大路と宅地を区切る築地状の施設と考えられます。

掘立柱建物 3 は、貯蔵用の甕を据えたと思われる穴を持っています。



写真 1 A区全景 長岡京期(西から)



写真 2 A区建物跡(北から)



写真 3 A区井戸跡(北から)

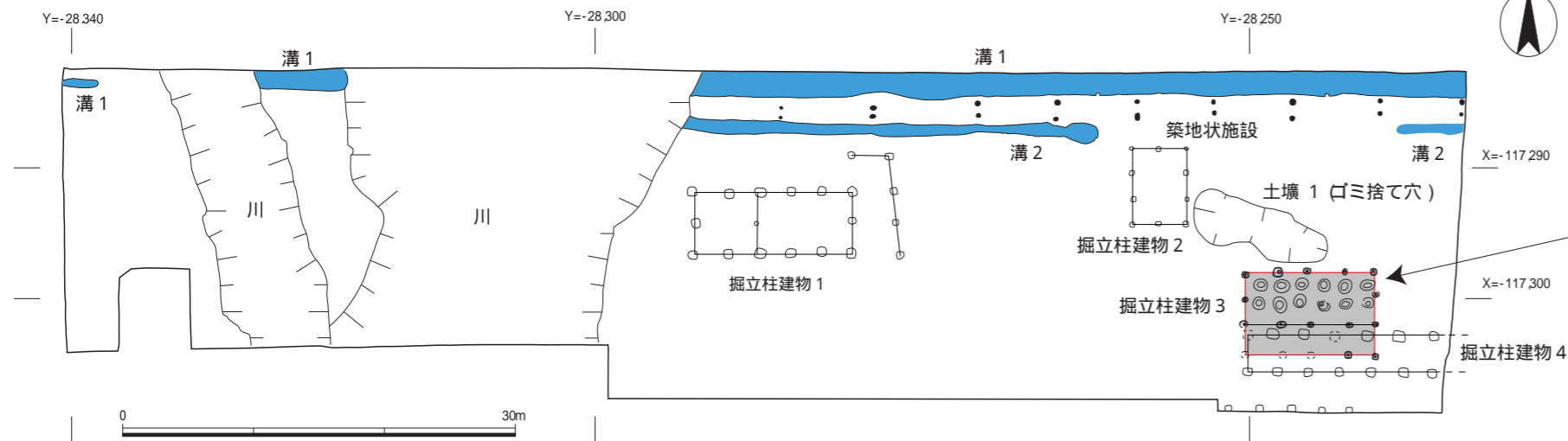


図1 遺構平面図(長岡京期)(1:500)

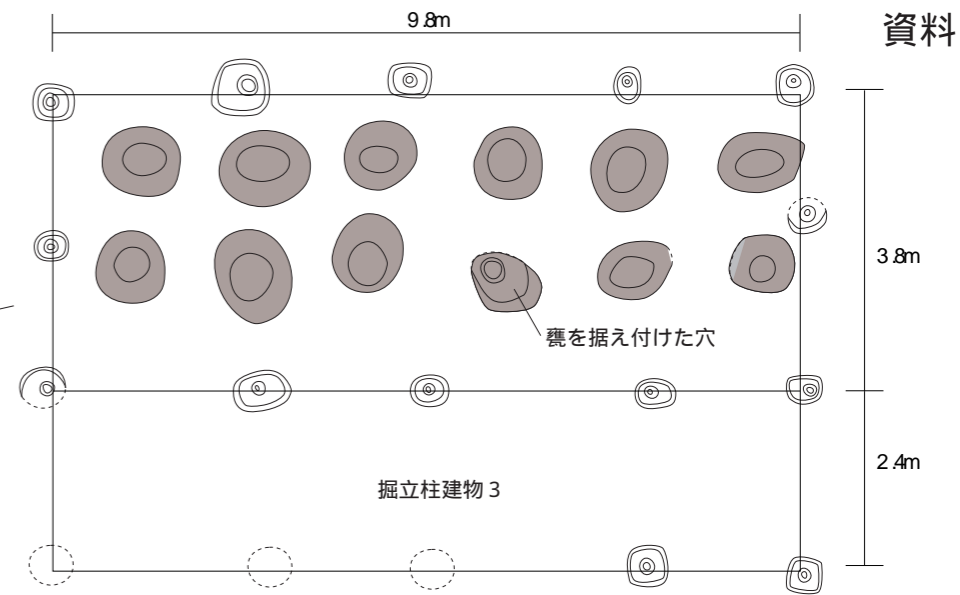


図3 今回の調査で検出した礎据え付け穴を持つ建物平面図(1:100)

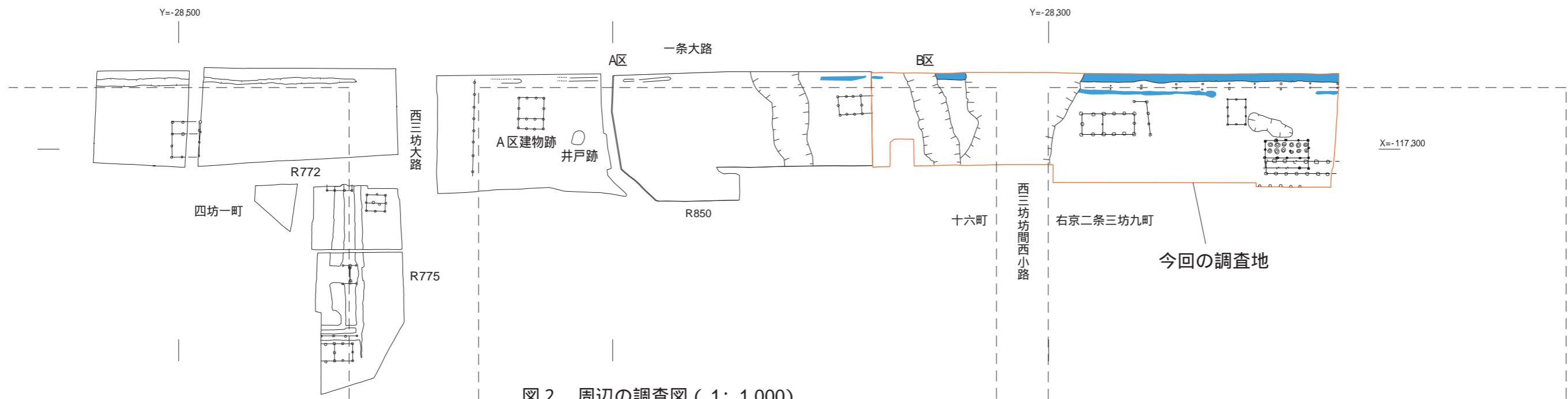
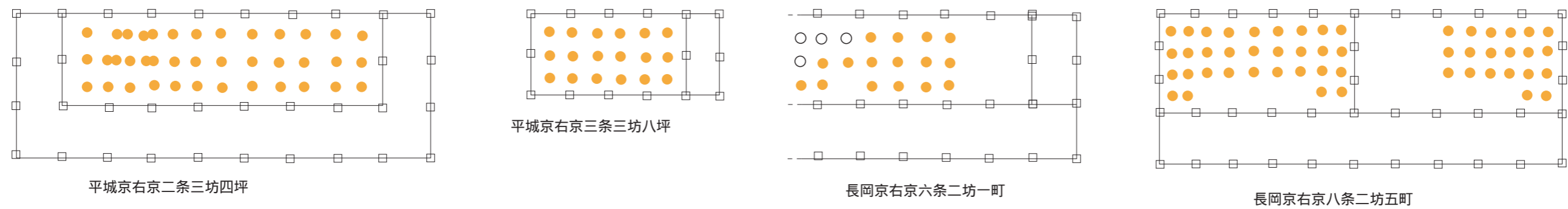


図2 周辺の調査図(1:1,000)



凡例 柱穴 推定の据え付け穴 発見した据え付け穴

図4 礎据え付け穴を持つ建物の類例模式図(1:250)

(木村泰彦「礎据え付け穴を持つ建物について」『瓦衣千年』1999年を一部編集して使用)

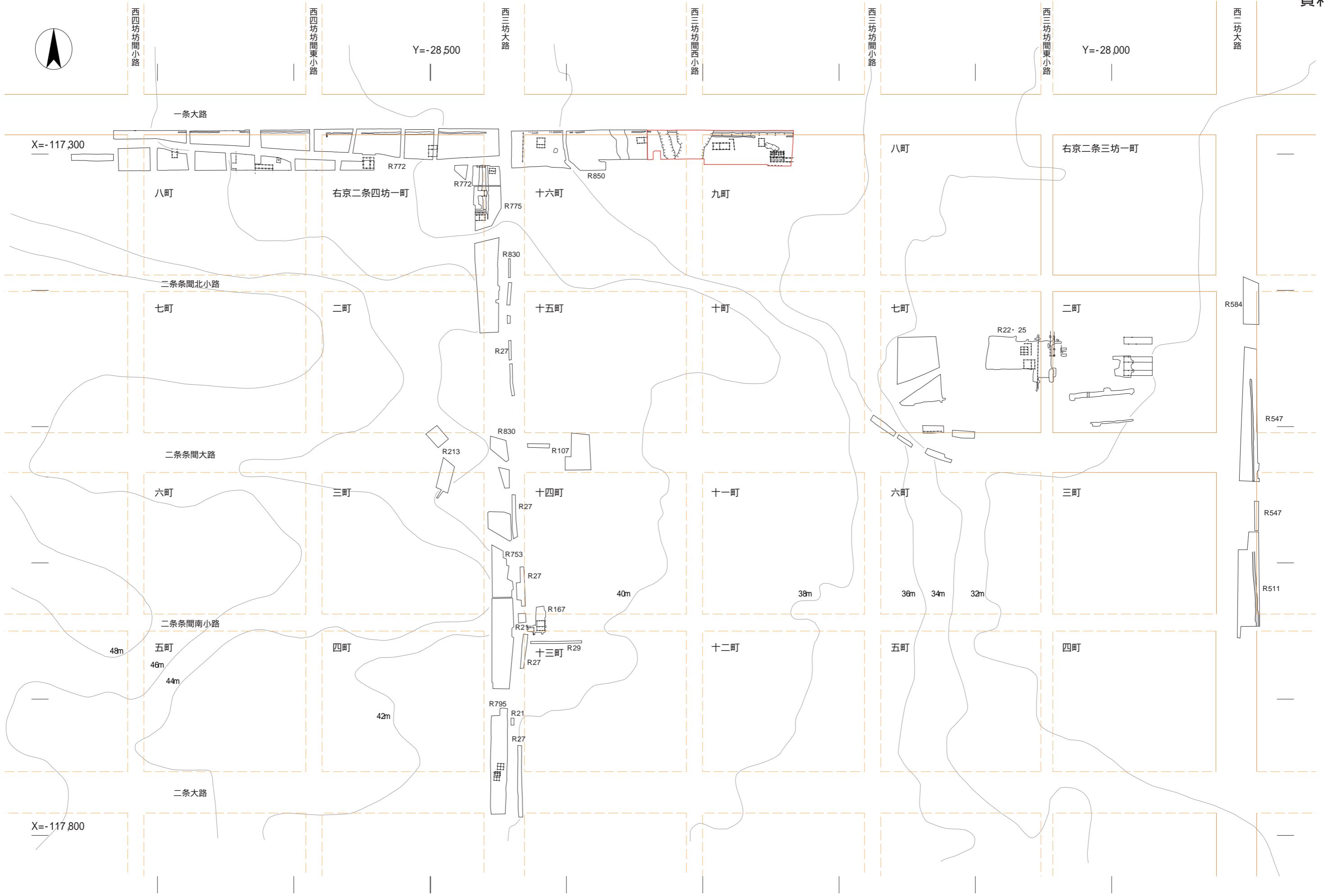


図5 調査地周辺の長岡京期遺構概念図 (1: 2,500)